

問題用紙は、試験監督員からの開始の指示があるまで一切開かないでください。

## 令和元年度

液化石油ガス設備士

法令試験問題

LX

試験時間 9 : 30 ~ 10 : 30

### 注意事項

- (1) 配布された問題用紙の種類（左上に黒地白文字で示しています。）が受験する試験の種類に間違いがないか、また、問題用紙と受験番号札の色が合致しているかどうか、必ず確認してください。  
万一、異なる場合は、速やかに試験監督員に申し出てください。
- (2) 答案用紙に記入されている受験番号、氏名等を確認し、間違いがあれば「受験者住所等修正票」を請求し、正しい内容を記入して試験監督員に提出してください。
- (3) この試験は電子計算機で採点しますので、答案用紙に記入する際には、記入方法を間違えないように特に注意してください。  
電子計算機は、黒く塗りつぶした ● の部分を読みとります。
- (4) 試験問題の解答は多肢選択式です。解答は、各問題の下に掲げてある(1)~(5)の中から、**最も適切なものを1問につき1個だけ選んでください**。1問につき2個以上選択した場合には、その問題については0点になります。
- (5) 解答は、次の例にならって、答案用紙の所定の欄にマークしてください。  
「記入例」  
問 次のうち正しいものはどれか。  
(1) A (2) B (3) C (4) D (5) E  
(3)を選択する場合には、  

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
○	○	●	○	○

のように、○の枠いっぱいにはみ出さないようにHB又はB鉛筆で黒く塗りつぶしてください。
- (6) 試験問題に関する質問にはお答えできません。
- (7) 「問題用紙」及び「答案用紙」は、試験監督員の指示に従い必ず提出してください。

設備士(法)LX

次の各問について、特に記述のない場合、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（以下「液化石油ガス法」という。）に係る法令上正しいと思われる最も適切な答えをその問の下に掲げてある(1)、(2)、(3)、(4)、(5)の選択肢の中から1個選びなさい。

なお、経済産業大臣が危険のおそれのないと認めた場合等における規定は適用しない。

問1 次のイ、ロ、ハの記述のうち、液化石油ガス法の目的及び用語の定義について正しいものはどれか。

イ. 液化石油ガス法の目的の一つに、自動車用の燃料に供する液化石油ガスの販売を規制することにより、液化石油ガスによる災害を防止することがある。

ロ. 液化石油ガスを鉄道車両内における調理のための燃料として業務の用に供する者は「一般消費者等」に含まれる。

ハ. 現に液化石油ガスを充てんしてある容器であって、液化石油ガスが充てんされた後にそのガスの質量が充てん時における質量の2分の1以上減少していないものは「充てん容器」である。

(1) ロ (2) ハ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) ロ、ハ

問2 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラム未満である容器による供給設備（バルク供給に係るものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. 充てん容器及びその附属品から漏えいした液化石油ガスが滞留しないような措置を講じた場合は、充てん容器を常に温度40度以下に保たなくてもよい。

ロ. 残ガス容器（内容積が5リットル以下のものを除く。）には、転落、転倒等による衝撃及びバルブ等の損傷を防止する措置を講じなければならない。

ハ. 内容積が4.7リットルの充てん容器等（その容器に取り付けたスカートを含む。）には、湿気、水滴等による腐しよくを防止する措置を講じなければならない。

(1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問3 次のイ、ロ、ハの記述のうち、供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. 液状の液化石油ガスの流出を防止する措置を講じた気化装置は、直火で直接液化石油ガスを加熱する構造のものであってもよい。

ロ. 一の供給設備により二以上の消費設備に供給する場合は、ガスメーターの入口側の供給管に、ガス栓を設けること。

ハ. 調整器とガスメーターの間に設置される供給管には、0.8メガパスカル以上の圧力で行う耐圧試験に合格する管を使用すること。

(1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

**問4** 次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵能力が980キログラムであるバルク貯槽による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

- イ. バルク貯槽は、高圧ガス保安法で定める特定設備検査合格証又は特定設備基準適合証を有するものでなければならない。
- ロ. 附属機器のうち、所定の放出管を設けた安全弁は、ふた付きのプロテクターで保護しなくてもよい。
- ハ. バルク貯槽は、その外面から2メートル以内にある火気をさえぎる措置を講じていれば、屋内に設置してもよい。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ロ (4) イ、ハ (5) イ、ロ、ハ

**問5** 次のイ、ロ、ハの記述のうち、地盤面下に埋設する貯蔵能力が980キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

- イ. 厚さ3センチメートルの不燃性の断熱材がプロテクターのふたに裏当てしてあるバルク貯槽を使用した。
- ロ. バルク貯槽の埋設には、掘削により発生した土を石塊等のないことを確認したうえで使用した。
- ハ. バルク貯槽の頂部が地盤面から25センチメートル下になるよう埋設した。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

**問6** 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

- イ. 貯蔵能力が3000キログラムの貯槽による貯蔵設備に、防消火設備を設置した。
- ロ. 貯蔵能力が3000キログラムの容器による貯蔵設備に、液化石油ガスが漏えいしたとき滞留しないような措置を講じた。
- ハ. 貯蔵能力が3000キログラムであるバルク貯槽を、その外面から第一種保安物件と第二種保安物件に対し、それぞれ17メートルの距離を有して地盤面上に設置した。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ロ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

**問7** 次のイ、ロ、ハのうち、保安業務の区分について正しいものはどれか。

- イ. 周知
- ロ. 保安検査
- ハ. 検針

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ロ (5) イ、ロ、ハ

**問8** 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ. 配管は、使用上支障のある腐しよくがないものであったので、腐しよくを防止する措置を講じないで使用した。

ロ. 配管は、その設置の工事の終了後に 5.5 キロパスカルの圧力で気密試験を行い、合格することを確認した。

ハ. 配管は、0.8 メガパスカル以上の圧力で行う耐圧試験に合格するものを使用した。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

**問9** 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ. 損傷を防止する措置を講じた配管は、建物の基礎面下に設置することができる。

ロ. 電源により操作される気化装置に、停電の際に自動的に作動する自家発電機その他操作用電源が停止したとき液化石油ガスの供給を維持するための装置を設けた場合は、その気化装置から発生する液化石油ガスが通る配管に手動復帰式自動ガス遮断器を設けなくてもよい。

ハ. 末端ガス栓は、特に定められた場合を除き、所定の燃焼器の区分に応じ、所定の方法により、燃焼器と接続されていなければならない。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) イ、ハ (5) ロ、ハ

**問10** 次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ. 屋内に設置する自然排気式のガスバーナー付きふろがま（密閉式のものを除く。）に設ける排気筒（排気扇が接続されているものを除く。）の有効断面積を、その燃焼器の排気部との接続部の有効断面積より小さくした。

ロ. 屋内に設置する自然排気式のガスバーナー付きふろがま（密閉式のものを除く。）出口の排気ガスの温度が 100 度を超えていたので、そのふろがまの排気筒の天井裏にある部分を、金属材料で覆った。

ハ. 屋内に設置されている密閉式ガスふろがまの給排気部に十分な耐食性を有するものを使用した。

- (1) イ (2) ロ (3) ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問11 次のイ、ロ、ハの供給設備又は消費設備の設置又は変更の工事に係る作業のうち、液化石油ガス設備士でなければ従事してはならないものはどれか。

イ. 漏えい試験の作業

ロ. 硬質管の取り外しの作業

ハ. 地盤面下に埋設する硬質管に腐しよく防止措置（電気防しよく措置を除く。）を講じる作業

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ロ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問12 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備工事のうち、その設備工事を行った者が、遅滞なく、その旨をその設備工事を行った施設又は建築物の所在地を管轄する都道府県知事に届け出なければならぬものはどれか。

イ. 料理飲食店の調理の用に供する供給設備であって、その貯蔵設備の貯蔵能力が 600 キログラムである供給設備の設置工事

ロ. 共同住宅の生活の用に供する供給設備であって、その貯蔵設備の貯蔵能力を 300 キログラムから 400 キログラムに増加する工事

ハ. すでに所定の液化石油ガス設備工事の届出がなされているホテルの暖房の用に供する供給設備であって、その貯蔵設備の貯蔵能力が 800 キログラムである貯蔵設備の位置の変更を伴う工事

- (1) イ (2) イ、ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問13 次のイ、ロ、ハの記述のうち、正しいものはどれか。

イ. 同一型式のガスメーターを交換する際、そのガスメーターと硬質管の接続に係る工事は、特定液化石油ガス設備工事に該当しない。

ロ. 特定液化石油ガス設備工事の事業を行う者は、事業所ごとにその事業を行うことについて、あらかじめ都道府県知事の許可を受けなければならない。

ハ. 特定液化石油ガス設備工事業業者が記録を作成しなければならない特定液化石油ガス設備工事に係る記録及び配管図面の保存期間は、2年間である。

- (1) イ (2) ロ (3) イ、ハ (4) ロ、ハ (5) イ、ロ、ハ

問14 次のイ、ロ、ハの記述のうち、正しいものはどれか。

- イ. 「液化石油ガス設備士」とは、都道府県知事から液化石油ガス設備士免状の交付を受けている者をいう。
- ロ. 液化石油ガス設備士は、保安業務であるバルク供給に係る定期消費設備調査を行うことができる。
- ハ. 液化石油ガス設備工事に係る気密試験の作業のみに従事するときは、液化石油ガス設備士免状を携帯していなくてもよい。

- (1) イ    (2) ロ    (3) イ、ロ    (4) イ、ハ    (5) イ、ロ、ハ

問15 次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に係る法令上正しいものはどれか。

- イ. ガスバーナー付ふろがまの排気筒に接続される排気扇は、特定ガス消費機器である。
- ロ. 液化石油ガス設備士は、ガス消費機器設置工事監督者の資格を有している。
- ハ. 特定工事事業者は、特定工事を施工したときは、その特定工事に係る配管の見やすい箇所に、容易にはく離しない方法により、所定の表示を付さなければならない。

- (1) イ    (2) ハ    (3) イ、ロ    (4) ロ、ハ    (5) イ、ロ、ハ

